

令和4年度第2回松江市総合教育会議

日時：令和5年1月17日（火）14：30～ 場所：松江市立第一中学校

出席者：松江市長 上定昭仁  
松江市教育長 藤原亮彦  
松江市教育委員 多々納道子、塩川寛、原田順子  
学校関係者 (第一中学校) 校長 池田浩、教頭 松井浩美  
教頭 井上明久、教諭 寺本佑二  
教諭 田中聡士、教諭 坂本智希  
主任 勝部千恵  
市長部局 理事（政策部長） 山根幸二、政策企画課長 井原崇博  
政策企画官 藤井一、政策企画課政策係長 本田裕美子  
教育委員会事務局 副教育長 寺本恵子、副教育長 成相和広  
次長（教育総務課長） 玉木一男、学校教育課長 太田強  
学校教育課 ICT 教育推進係長 福田一斎  
学校教育課 ICT 教育推進係 若槻徹  
学校教育課 ICT 教育推進係 内田晴己  
教育総務課総務係長 今田浩二

○事務局 成相副教育長

それでは、皆様お揃いですので、始めさせていただきます。本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。これより令和4年度第2回松江市総合教育会議を開催いたします。

本日、司会を務めさせていただきます副教育長の成相でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、上定市長から御挨拶申し上げます。市長、よろしく申し上げます。

○上定市長

皆様こんにちは。本日は、松江市立第一中学校で総合教育会議を開催させていただ

くにあたり、御尽力・御協力いただきました皆様にお礼申し上げます。

教育委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところ、御参加いただきましてありがとうございます。忌憚のない御意見をいただき、松江市の教育行政に反映してまいりたいと考えております。

本日は ICT をテーマとさせていただいております。これまで、松江市は、東京あるいは大阪から地理的に離れていることから、立地条件的に不利な地域だとの自覚を持っていたところがあります。逆に言うと、それが言い訳にできたところもあります。教育を受けるにあたって、中央から離れていることによっていろいろな弊害があるという思いがありましたが、そうした言い訳が徐々に使えなくなってきました。

情報通信技術の発達によって、教育のみならず行政全般について、場所を選ばず、充実したサービスをより早くより丁寧に細かく届ける、発信するといったことが可能になりつつあります。

そうした中で、松江市としても、児童生徒 1 人 1 台のタブレット端末の配備や、各教室への電子黒板の導入を進めてきましたが、加えて、今後はそれを上手く活用していく必要があります。これは教える側も、教えられる側も同じであり、具体的な実践を経て改善を図っていくことで、地方においても、より質の高い教育・学習の機会を提供できるチャンスが到来していると考えています。

松江市として、ICT 機器をフル活用していただくために、インターネット回線の速度向上などのインフラ対策については、随時実施していきます。あわせて、ICT 教育の支援員の方の力も借りながら、ICT を活用して生徒一人一人に合った丁寧できめの細かい学習の機会を提供したいと思っております。

今日は、第一中学校の御協力のもと、1 年生から 3 年生の理科・数学・社会の授業を視察させていただきます。ICT 教育はまだ入り口の段階ではありますが、大きな可能性を有しており、やり方を工夫していくことで、松江・島根の教育レベルを高めていくことが可能だと思います。今日は皆様と意見交換させていただいた上で、ICT 教育を上手く活用した学習機会の創出に向け歩みを進めてまいりたいと考えております。何卒よろしく願いいたします。

○事務局 成相副教育長

ありがとうございました。

本日の出席者につきましては、お配りしている出席者名簿を御覧いただければと思います。

それでは、本日のスケジュールについて御説明いたします。まず、本日視察させていただく ICT 機器を活用した授業について、池田校長から第一中学校の取組の概要について御説明いただきます。続いて、教室に移動し、授業の様子を御覧いただきます。その後、この会場に戻り、意見交換に移らせていただきたいと思いますと考えております。

それでは、池田校長に御説明いただきたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

#### ○第一中学校 池田校長

失礼いたします。第一中学校の校長の池田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。座って説明させていただきます。

ようこそおいでくださいました。今日は ICT 機器を活用した授業を御覧いただくことになっております。お手元に資料を配布させていただいておりますが、1年生から2年・3年生と、今日は全ての学年にわたって ICT 機器を活用した授業を行うことにしております。

御覧いただく授業の内容はお手元の資料のとおりです。授業を順次見ていただきますと、全ての生徒が何かしらタブレットを使っている様子を御覧いただけるものと思います。

まず、今日に至るまでの経緯について御説明します。松江市教育委員会の皆様方に非常に尽力いただいて、インターネット回線の状況を改善していただきました。4月に私が着任したときには、画像が映らなかったり音声が飛んだりして、分散型のインターネット配信による集会が上手くできなかつたのですけれども、それ以降に回線増強をしていただいたおかげで、今年の1月の始業式については無事行うことができました。随分御尽力を賜ったと考えています。

さらに、ローカルブレイクアウトという手法によって回線速度を早くしていただくということですが、これから御覧いただく4学級については、つい先ほど設定を完了したということで、恐らく不都合なく機械が動くのではないかと思います。

いずれにしても設定には随分時間がかかるようでして、生徒数も多いこともあって、1つの物事を一斉に進めようとするとう時間がかかってしまう本校の実態でもあるかと

思います。

今日はこの4学級以外にも授業で生徒1台のタブレットを使う予定である学級が5学級あり、校務パソコンなどを学級に持ち込んで行う授業も6学級あると確認しています。電子黒板については、ほぼ全ての学級が使っていると思います。

今日は時間の都合上4学級しか御覧いただけませんが、その他の学級における状況等については、後ほど御質問等をいただきましたら回答したいと思います。

第一中学校の状況についてですが、生徒1人1台タブレットの使用状況が決して進んでいるとはいえないと考えています。まだ持ち帰りもできていない状況です。持ち帰りについては、鞆に付けるタグを800、900個準備するのに随分時間がかかっておりまして、これにまた番号を振るという作業があるので、年度内には必ずスタートしようとは考えていますけれども、できる学級から進めたいと考えています。

また、これまでは教員が見せたいコンテンツを探したり、それから自ら資料を作成したりして、タブレットや校務パソコンを使って、電子黒板を使って映し出すような使い方をしてきました。自作のコンテンツは教師用タブレットに移し替えることがなかなかできません。ですから、自分の机上で作ったコンテンツはなかなか移しにくいということがこれまで高いハードルであったと思います。

加えて、授業の準備段階で、タブレット自体に授業準備の仕込みをしようと思っても、教員のタブレットの数が十分でなく、すぐに手に取ることができなかったことから、なかなかその状況も改善されなかったという点もあると思います。

しかし、そのような状況においても、一方では使える者は自分の手元に置いて、タブレットに自分のコンテンツを仕込んで授業に持っていくということも行われていました。

お配りした資料の最後に教職員のアンケートの結果を付けておりますので、御覧ください。昨年の9月と1月に教員のタブレット使用状況に関するアンケートをGoogleフォームで実施しています。全教員が回答しているわけではないので、あくまでも傾向として考えていただけると良いかと思います。

上の2つは、これは「ご自身が使っていますか」という質問です。これを見ますと、随分緑とオレンジの部分が少なくなってきましたので、自分自身でタブレットを使っている先生方が増えてきたと考えられます。5年1月の緑色は22.5%で、約5分の1、4分の1ぐらいは「ほとんど使わない」と回答された先生もおられますが、この中に

は校務パソコンなどを教室に持って行って使っている先生もいらっしゃるのですが、タブレットは全員は使えていないけれども、総じて ICT 機器については教室へ持ち上がって使っているものと認識しています。

下のグラフが課題となるかと思いますが。「生徒 1 人 1 台のタブレットを使って授業を行っていますか。」という質問ですけれども、これについては「あまり使わない」オレンジと、「ほとんど使わない」緑色の合計は、上も下もともに 60%です。つまり、生徒 1 人 1 台のタブレットがあまり使用できていないと推測できます。

その中でも青い部分の「よく使う」教員が増えているということは、生徒一人一人にとってみればタブレットが使われている機会は増えていると捉えることができるのではないかと思います。使い込む教員はまだそんなに多くはないけれども、子供たちの中で使われる機会は増えていると考えています。よく使う教員が増えてきているのは、タブレットに随分慣れてきている教員がいることと、2 学期にインストールしていただいたドリルソフトの影響が非常に大きいと思っています。これは革新的な一歩になったと考えています。

愚痴になって申し訳ないのですが、このドリルソフトをインストールするのに一中では約 1 ヶ月かかってしまいました。もう少し早くできるスケジュールでしたのですが、9 月初めの予定が実際には 10 月の終わりぐらいまでかかったでしょうか。回線のスピードが遅かったことやタブレットの数が多くて準備に時間がかかったこと、それから実際に動かしてみると動かない機械がポツポツ出てきて、一斉に使えないというようなことを繰り返して、ようやく今、子供たちのドリルソフトは全員使うことができるような状況になったと思います。

これまで研修等も行ってきたけれども、なかなか教員のタブレット使用や生徒一人一人のタブレット活用が進まない 1 つの原因として、私が思うには、教員が生徒にタブレットをどのように使わせたいとか、あるいは生徒のどのような学習にタブレットやインストールされているソフトを使わせたいのかといった視点に乏しかったからだと思います。どの場面でこの道具を使わせたいかという視点がないと、いつまでも自分で作った既存のものを提示するというような、これまでの概念から離れられないというように考えています。

そのためには、タブレットの操作等に関する知識や、それに関わる意識が非常に高くないといけないと考えています。教員自身がタブレットの機能やソフトウェアを知

る・慣れる・熟達するということが必要ではないかと考えているところです。

タブレットは多機能ですので、この機能のどこをどう使っていかは、やはりタブレットを知らないと、子供たちに提供しにくいというように考えます。

ドリルソフトについては使用目的が明確で、子供たちに繰り返しの練習をさせたり、あるいは今日の授業の振り返りをさせたりする場面で使いますので、教員も明確に目的意識を持って使えるものと考えています。

全教員が手元にタブレットを持っていませんので、もう少し慣れる機会を持つことや、あるいは1つのカテゴライズされた教員に持たせる、例えば数学の教員全員に持たせるとか、英語の教員全員に持たせるとか、そういったことをしていかないといけないかなというように考えています。

それが明らかになった事例の1つとして、全校に配信するソフトウェア、teamsを使って私が話している映像を届ける作業をする際には、担任のタブレットは全員分ある訳ですから、タブレットの操作を教えて、そして教室に持って上がって、全員準備完了したら目的の映像を提供することができるわけです。目的が明らかになっていて、それに関わる職員が全員タブレットを持っていると、意外と早く目的は達成されると思います。

しかし、数学の宿題を出したくても、タブレットを持っていて使える教員もいれば、そうでない教員もいる。そういった状態で数学の宿題を1学年になかなか提供できないというようなことが起こっていると考えています。

これから皆様方に授業を見ていただきますので、是非その後の協議で忌憚のない御意見をいただきまして、私たちも新たな気づきがほしいと考えております。新しい一歩が踏み出せるような御意見を賜ると幸いです。

長くなりましたが、以上で説明を終わります。

#### ○事務局 成相副教育長

ありがとうございました。まさに現在の一中の状況をそのまま話していただいたところですので。御質問等あろうかと思いますが、後ほどの意見交換の際にお願いしたいと思います。

それでは、視察に移ります。

○事務局 成相副教育長

それでは、時間になりました。そして全員揃いましたので、引き続き進めていきたいと思えます。

御視察いただき、ありがとうございました。そして、一中の皆様、授業提供いただき、本当にありがとうございました。

先ほどの学校長からの説明や、授業の様子視察を踏まえまして、御質問や御意見などを伺っていきたくと思えます。皆様に発言をしていただこうと思えます。

そして、一中からは先ほどの授業者も来て来ています。それから市教委の ICT 担当も来ておられますので、途中でいろいろ質問等が出ましたら、そこに振っていかうと思えます。

それでは、最初に市長、いかがでしょうか。

○上定市長

授業を視察させていただき、ありがとうございました。まずそれぞれの授業ごとに、質問を含めて気付いた点をお話しさせていただきます。中学生時代に返ったような感覚で視察しましたが、「こんなに難しい内容を学習していたのか。」と思ながら授業を聞いておりました。また、タブレット端末がスムーズに使われていると見受けたところでは。

最初に、寺本先生、ありがとうございました。学習ソフトの機能的な話として、生徒自らすぐに答え合わせできるので、例えばア・イ・ウ・エの中から答えを選択する問題で、イと入れて答え合わせをして違った。ウと入れて答え合わせをして違った。エと入れて答え合わせをして違った。答えはアなのですが、最後にアと入れて「合っていた。」と言って、その生徒さんは次の問題に進んでいました。気持ちは分かりますが、それでは身に付かないだろうと思えました。答え合わせが簡単にできてしまうがゆえに、特に選択問題では工夫が必要だと考えます。

次に、坂本先生、ありがとうございました。ICT 機器を活用してカメラで撮影するのと合わせて、物理的な教材で地球と太陽と金星の位置を確認するやり方は面白いと思えました。自分の目で見ただけではなく、撮った写真と照らし合わせたときに、「こ

の角度で見たら、金星の満ち欠けが半分だな。」などと自ら探り出すこと、どのポジションでどう見えるか考えることに意味を感じました。

それから、田中先生、ありがとうございました。これも機能的な話なのですが、クラスメイトが提出した回答が全部見えることが良いか悪いかと思ったところがあります。「分からない。」と答えている生徒の回答まで露呈してしまいます。やる気のある生徒や早めに書けた生徒は自慢できるでしょうし、そういったインセンティブで「早く書こう。」といった意欲につながるかもしれませんが、全員がそうではないときに、回答を示すことの意味や、デメリットを考える必要があるように感じました。

森脇先生の社会の授業では、操作方法が分からなくて先生を呼ぶ生徒がいました。呼べる生徒はよいのですが、操作が分からなくて授業に付いていけずに放っておかれてしまう生徒もいるのではないかなと思いました。社会の授業は生徒が自分で学習する形式だったので、聞いていれば知識が入ってくるわけではなく、自分で能動的に行動しなければならないときに「操作がよく分からないから放っておこう。」と考える生徒をどのようにフォローするか、見つけるかという点で工夫が必要だと思いました。

あとは基本的な話として、それぞれのタブレット端末で音声を聞くときに隣の音声も聞こえるのですが、イヤホンを付ければ先生の声も聞こえないでしょうし、どのように使うのがよいのだろうかと思った次第です。

全体を通じて感じたのは、先生方お一人お一人がすごく時間をかけて授業のやり方を考えてくださっていることです。今後、効果的効率的な ICT 活用授業の形が見えてくれば、学校内での共有に留まらず、例えば、市内全校を対象にした教科別の講習会のような場で優れた教育事例について情報交換することで、市全体のレベルを高めていくことができるのではないかと思います。

校長会の中でも「〇〇中学校の〇〇先生の授業が面白い。」ということを共有するような仕組みを教育委員会を含めて考えていかなければならないと思ったところです。

以上です。

#### ○事務局 成相副教育長

ありがとうございました。

市長から授業ごとにコメントをいただきましたので、今おられる授業者の先生方、市長のコメントを受けて、説明と補足や回答があればお願いします。寺本先生からお



願いたいと思います。

○第一中学校 寺本教諭

確かに市長がおっしゃったように、選択問題で3択・4択の場合は順番に選んでいけばいずれ正解に辿り着くので、学習の本質からは少し違うところもあるのかなというところは、課題として感じました。

ただ、このタブレットドリルにつきましては、例えば定期テスト前ですとか、単元が終わったときに、その試験範囲の復習として使用したり、あるいは、私の構想では自学や朝学習等でも数分でできるミニ学習として活用したりすると非常に有効ではないかと思っております。

今日は10分間という時間でしたけれども、本当はもっと短い時間で数問をきちんと解かせるというような方法であれば、繰り返すことによって本当の答えに行き着くようになっていくのではないかなと考えております。

以上です。

○事務局 成相副教育長

続けてお願いします。

○第一中学校 坂本教諭

失礼します。理科の授業を担当した坂本です。本日はありがとうございました。

市長がおっしゃったカメラで撮影するという点についてですが、御指摘いただいたとおり、視点というところにスポットを当てて考えたものです。理科の教材教具は視覚的支援をするものが非常にたくさんありますが、それに2点アプローチをしようと思っていました。

まず1点は、視覚的な教材のどこを見て、どう使っているのかということについてです。分かる生徒は理解が早いのですが、やはり分からない生徒はどこを見ればよいのか分からないし、「ここ見えるよ。金星が欠けているよね。」と言われても全く視点が分からない生徒がいます。この視点を共有する手段として、友達と一緒に写真を撮ります。視点を共有するために1人1台のタブレットで撮る時間を設けています。

もう1点ですが、市長が先ほどおっしゃったとおり、残すということです。そのとき見ただけだと後に残らないのですけれども、見て撮っておくともう一度見たときにそのときの見え方を振り返ることができるので、タブレットで撮影して残しておきます。

また、自分のノートで共有できるようになっており、設定するとほかの生徒のノートも見るできるので、後からほかの生徒の視点も共有できるという点で活用しております。

以上です。

#### ○第一中学校 田中教諭

失礼します。今日数学を担当しました田中です。

全ての人の意見を出すことへの良し悪しということについてですが、私もそれを考えていました。これまでの授業では、それこそ無記名で班で意見が出たものを書いて黒板に貼るというような形で行っていましたが、2学期の終わりと3学期初めのところで自分が持っている3クラスでそれぞれ授業をして、生徒に数学的な内容の振り返りとタブレットを使ったことでどうだったかという振り返りも書くようお願いすると、ほぼ半数以上、8割・9割の生徒が「手を挙げていない子の意見が分かって良かった。」といった意見でした。やはり積極的に発表をする生徒であったりとか、数学が得意な生徒がどんどん意見を言って、それで授業が進んでいくという面があるので、そうではない生徒でも結構良い意見を持っていたり、授業が終わってからワークシートを見ると、「この生徒は良いこと書いているな。」ということがあっても、「授業中に拾えなかったな。」という思いがあったのですが、これをしてみると、全生徒の意見を見ることができるので、「この生徒はこのように考えているのか。」とか、「良い閃きしているな。」ということも全部拾うことができます。それも私自身もですし、生徒がほかの生徒の良いところを見ることができるので、悪い部分もあるとは思いますが、ICT機器を使って一括して全意見を見ることができるということについては、生徒は非常にプラスのイメージで捉えているのではないかなと思っています。

以上です。

#### ○事務局 成相副教育長

ありがとうございます。

一中の皆さん、付け加え等ありませんか。

○第一中学校 池田校長

私もタブレットドリルについてはよく見せていただいていたのですが、今日、理科の授業でのタブレットの使い方などは非常に効果的だなという印象を持ちました。それぞれの指導者の意図もあったし、今後もどんどん進めていくことができると思います。

先ほども申し上げましたけれども、この教材や道具を使ってどのように指導していくかということが明確になっていないと、やはり進んでいかないということは強く感じたところです。

そして、今日は結構熟達した4名の者が授業を行いましたので、これをほかの者が見て学ぶことができると良いと思うのですけれども、やはり手元に自分の機器を持ちながら操作する、自分の機器を動かしながら取得していく、体得していくといった機会があると本当は良いと考えています。

市長がおっしゃったイヤホンの購入等については深くは考えていませんけれども、いずれまたヘッドセットの提供があるのではないかと思いますので、そうなるべくと今度はヘッドセットを使っていくということも考えたいと思っています。

○事務局 成相副教育長

ありがとうございます。

市長の感想を受けまして、市教委側からどうですか。福田係長お願いします。

○事務局 福田 ICT 教育推進係長

ICT 教育推進係の福田でございます。

市長から見る限りはタブレットがスムーズに動いていたという御感想をいただいてまず安心したところですが、その一方で、よくよく見ると端末がフリーズしてしまったり再起動している生徒さんがいたり、全体の中から見れば1人ではあっても、先ほど市長のコメントにありましたように、操作が分からなくて付いていけない子がいるのではないかと、自分だけ再起動していても授業が止まってしまったり迷惑かけるから言えないみたいな子も恐らくいるのだろうなと思いました。

こういう理由だからフリーズするとか、ここがこう悪いから止まるとかという明確な理由がないけれども、ときどきの端末でも不具合が起こり得るのが Windows の特徴みたいなどころもありまして、現場の先生方にはこの部分が非常に負担になるだろうなというように思っております。

何か少しでもそういったことが減らせないか、安定稼働できないかということは、引き続き委託事業者とも協議をしたいというように改めて思ったところでございます。

#### ○事務局 成相副教育長

市長の感想から少し返しをさせていただいたのですけれども、よろしいですか。

それでは、同じところでまた触れることもあろうかと思いますが、このほか、感想についていかがでしょうか。

それでは、原田委員からどうぞ。

#### ○原田委員

失礼します。教育委員をしております原田といいます。よろしくお願いします。

今日は貴重な時間をありがとうございました。タブレットをしっかりと使った授業を見させていただいて、ありがたいと思いました。

まず、タブレットを使うことにあたって、子供たちがタブレット操作のことに關しても、自分たちでも学び合っているというか、隣で苦戦しているなど思ったら、すぐ隣の子が教えてあげるとか、そういう環境ができてるのがすごいなというように思いました。

それができていることによって、恐らく勉強について分からないことがあったとしても、そうやって子供たちが学び合うという姿勢ができるのではないかなというように感じました。

子供たちはツールとしてタブレットを使うことがかなりできていて、タブレットの使い方に関しては、そこまで難しいことではないだろうなというように感じたので、あとはそれをどのように使っていくかということになっていくと思いますが、先ほど市長もおっしゃったとおり、一人一人の答えが見えるという状況になることもあると思います。○か×かという問題に限っては、別に一人一人の答えを比較しなくても良いとは思いますが、今は1個の回答を求めるのではなくて、多角的な解答

を求める授業が多いので、今回のように数学の問題でも答えが1つではなくて考え方がいろいろあるような授業については、タブレットを使ってみんなの意見が見えることがとてもすごく良いことなのだろうなというように思いました。

あと、理科の金星の満ち欠けの授業でも先生がノートをしっかり作っておられて、そのノートに子供たちがどんどん追加して、自分のノートができあがっていくという流れがとてもスムーズにできていて良かったなと思いますが、持ち帰りがまだできていないというところで、それを家で見ることができないのかというところが少し気になりました。1つのノートとしてタブレットを使うにあたっては、やはり早く持ち帰りができるようになって復習として家でもタブレットで自分が作ったものを見ることができ、もしくはそれをクラウドなどでアクセスすれば自分の持っている機器でも見ることができるようになると良いのかもしれませんが。自分が作ったタブレットのノートが今までの自分のノートと同じような意味合いを持ってくると思うので、セキュリティの問題もあるかもしれませんが、家でもどこでも見ることができるといことが重要なというように思いました。

そうすると、1年生のときにタブレットに書いたノートを3年生になっても見ることができるとか、スカイメニューで作ったノートをほかのソフトでも見ることができるとか、そういうところがまた気になって、今後しっかりと使っていくものになっていく、データとして残っていくというところが今後どのようになっていくのかなというところが気になりました。年度を越えてどうやって使っていくのかというところです。

あと、ドリルについてですが、私の娘が今ちょうど中3で他校に通っていますが、小規模校なので持ち帰りが全部進んでいて、毎日持って帰ることになっています。学校の自分の机の横に既に置いていて、いつでも取れるようになっています。充電は家でしてくるというシステムになっていまして、ドリルもどんどん進めています。やはりドリルの中でも、選択問題ではなくて数学などですごくしっかり考えた問題については、最後に答えを見るのではなくて、解いた時点で答えが見たくなるという問題もあるのです。後になって考えるよりも、今すぐに答えを見てしっかりと学び直したいという問題があったときに、答えを見るとドリルが1回終了して何点みたいなものが出てきて、その単元は少しできなかったといった扱いになるのではないかなと思います。そこで、ドリルをした後にAIが自分の不得意なところを拾っていくという部分が、

どのような拾い方をするのかというところが娘の学習を見ながら少し気になっています。

あとは、自分のペースでドリルをやっているのはすごく良いことなのですが、自分のペースを掴める子と掴めない子でやはり差があって、そういうことを自分でできないから家庭教師に頼むとか、塾に行くとかといったことがあると思うので、ドリルの結果から先生に「あなたの得意なところ、不得意なところはこういうことだよ。」といったフォローをしっかりといただくことが大事なのかなというように思いました。

最後に、やはり先生方へのタブレットは必須ではないかなと思っています。タブレットを導入するという最初の時点から気になっていたのですが、一番初めに子供たちに1人1台配備するという話が出たときに、先生から「先生は1人1台ないですね。」という話をお伺いしたことがあって、「いや、それは少しおかしいのではないか。」と思いました。まずは先生が持っていないと意味がないというか、うまく進められないだろうと私は思っていたので、先生方が上手く授業を組み立てていけるようにタブレットとパソコンのシステム化を今後も考えていただけたらなというように感じました。今日はありがとうございました。

#### ○事務局 成相副教育長

ありがとうございました。

今、原田委員から御質問がありましたけれども、データの引継ぎ等について回答はありますか。

#### ○第一中学校 坂本教諭

失礼します。理科を担当しております坂本です。本日はありがとうございます。

本日使ったノート、スカイメニューについてですが、端末の持ち帰りはしていませんが、アカウントのカードは1人1枚配っておりますので、家庭の端末でインターネット回線を通じてアクセスが可能になっております。以前、QRコードを配っておりまして、それを読み取ると自分のページにアクセスして、自分のノートを見て復習ができる形にしております。

以上です。

○事務局 成相副教育長

ありがとうございます。

それでは、多々納委員をお願いします。

○多々納委員

失礼します。教育委員の多々納と申します。今日は4人の先生方、良い授業を見せていただいて本当にありがとうございます。座って話させていただきます。

各教科の特徴とITタブレットが持つ機能を上手く生かして、すごく良い授業を見せていただいたなと思います。最初の理科の授業では、ドリルマネージャーで繰り返して学習を行うことができる。それから、2番目の金星の満ち欠けですと、カメラで撮影して、やはり自分で主体的に写せるというのは学習効果の面で違ってくるのではないかなと思います。それから、3番目の数学ですと、ポジショニング機能で生徒の考え方の変遷を視覚化するとか、最後の元寇のところですと、学びポケットのeboardを使って振り返りを行うというような、「タブレットにはこういう機能があるのか。」ということを改めて理解できました。

そもそも、教育は先生の特徴を生かしてやることに意味もあると思うのですが、せっかくそのタブレットでこのような良い機能があって、子供たちが普通の授業とは違ってまさに主体的に学習を進めているので、今回のこういう方法について、例えば3年生の理科であれば、みんなが同じような形で学ぶことができると良いのではないかなと思います。そうすると授業効果も上がって良いのではないかなと思いますので、各学年や各教科でいろいろな相談をしていただいて進めていただけるような、そういうシステムがあると良いなというようなことを思った次第です。

そうなりますと、先ほど原田委員と校長先生もおっしゃいましたが、やはり教員のパソコンがあったとしても、授業としてはタブレットを使うので、1人1台は是非ほしいなと思います。この環境整備の概要表を見ますと、令和4年度の教員用タブレットのところには常勤の教員の数しか書かれていませんが、非常勤の先生方もきっと大変多くなっていると思います。非常勤の先生の授業を受ける生徒もたくさんいるので、今日の授業を見させていただくと、やはり非常勤の先生方にも1人1台タブレットがほしいなとより強く感じたところです。やはりこういうIT機器はもちろん経費が非常

にかかるとは思いますが、子供たちへの教育効果を考えると、是非教育費を十分に出していただきたいなということを改めて感じたところです。

生徒が主体的に学ぶということが今の教育課程の本当に大きな課題になっておりまして、この方法で小学校から学ぶ子供たちは、本当にしっかりした力が付いていくのだらうなということが想像できました。

以上でございます。ありがとうございました。

○事務局 成相副教育長

ありがとうございます。

多々納委員の御意見について、何か意見はありますか。

教師用タブレットのことがお二人からも出ましたが、見通し等についてはいかがですか。

○事務局 福田 ICT 教育推進係長

ICT 教育推進係の福田でございます。教職員の方へのタブレットの配備が大きな課題になっているということは認識しておりまして、校長先生をはじめ、現場の先生方でしたり、更には事務職員の方、あとは、例えば図書館の先生方や保健師の先生方など、要は学校に関わる方々がそれぞれタブレットを持つことで同じプラットフォームで情報がやり取りできるようになるということは話しております。

一方で、タブレットも当然そうですが、それ以外にかかる経費もたくさんあります。そして、契約の順番の関係で、先に契約期間が終了してしまうので用意しないといけないものもあつたり、国の支援メニューを上手く活用したりということについては、財政当局も含め協議をしているところでございます。できる限り速やかに、そして良いものを整備できるように引き続き検討を進めてまいりたいと思います。御指摘ありがとうございます。

○事務局 成相副教育長

それでは進めていきます。塩川委員、お願いします。

○塩川委員



失礼します。教育委員をやらせていただいています塩川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、個人的な話ですが、ちょうど2年前にいろいろな御縁がありまして、私も3ヵ月だけ松江一中で勤務させていただきました。ですので、教員の皆さん、そして生徒たちに会えることを非常に楽しみに来ました。特に1年生に関わっておりましたが、今の3年生です。あの当時に比べたら成長したなど感心をしているところです。

先生方の御指導のおかげで立派な中学3年生になったなど感じています。今日の3年6組の授業視察の際に生徒たちと少し話をしましたけれども、本当に成長した様子を見させていただきました。

また、教職員の方も、今日授業していただいた寺本先生、坂本先生は、私の最終勤務校の松江三中の同僚でして、久しぶりに授業、そして今の受け答えを見させていただいて、これまた成長といいますか、安心をしたところです。ありがとうございました。

それから、授業についてですけれども、本当に全学級が落ち着いた雰囲気の中で授業に取り組んでいる姿を見て、日々の先生方の御努力のお陰かなと思ったところです。

ICT機器を使った授業について15分ぐらいずつ見させていただいたのですけれども、本音を言うと、1時間しっかり、どういう意図を持って、どういう使い方をして、最終的にはどのような生徒の学びがあるのかということを見たかったという気がしたところです。

ただ、その中で2つだけ授業について話をさせていただきますが、坂本先生の理科の授業で、ある生徒にピンポン玉で作られた教材について「これはどうしたの。」と聞いたら、「これは坂本先生が恐らく夜なべをして作ってこられて、そのお陰で今日の授業があります。」と言って、大変感謝していました。そういう姿を見て、立派な言葉を発するようになったと感心したところです。

もう1つは、社会科の授業で電子黒板を使っているいろいろやっておられ、最終的には通常の板書をやっておられましたけれども、少し気になったのが、女子生徒は自分のノートにしっかりメモをしていましたが、私が見た限りは男子生徒は1人も電子黒板に書いてあるものをノートに書いていませんでした。

やはりICTのデメリットとして、記憶に残りにくいということがあるのではないかと思います。私はICT機器を使うようになる前の時代の教師でしたので、以前は板書

によってしっかり内容をまとめる教育だけだったのですけれども、今の ICT のメリットとそういう昔ながらの教育をしっかり 1 時間の中でも融合させて、ハイブリッドとかたちでそれぞれの良さを生かしながら、今後もやっていくべきではないかという感想を持ったところです。

長くなって申し訳ありませんが、本当に先生方は ICT 活用ということで、いろいろ日々努力をされていると思います。先ほど御説明のあったアンケート結果を見ても、先生方も非常にやる気に満ちているといえますか、何とか頑張ってみようという意欲がアンケート結果にも出ていると思います。特にベテランの先生や、あまり ICT 機器の操作に慣れていない先生にとってはなかなか大変だと思いますが、先ほどから話が出ていますように、いろいろな場で共有し合って、誰にも優しい ICT の活用ができればよいと思います。一足飛びにはできないと思いますので、年々の積み上げをやりながら、最終的に生徒たちがしっかり学び取っていくように、先生方の質を高めていただきたいなと思っていますところです。

最後に 1 つ。今、松江一中をモデルとして回線のキャパを拡大されたということですが、やはりせっかくハードを整備されたわけですから、宝の持ち腐れにならないようにするためにも、市長さんへのお願いですけれども、相当な予算が必要だと思いますが、まず使いやすい環境を徐々に整えていただければ現場も大変喜ばれ、より有効になっていくのではないかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

#### ○事務局 成相副教育長

ありがとうございました。

塩川委員の御意見について、何か「このことを話したいよ。」ということがありましたら、どうでしょうか。

#### ○上定市長

それでは私から。エールをお送りいただきまして、ありがとうございます。

予算措置に関しては、「鶏・卵」のところがあるのも事実です。環境整備するための予算を確保するためには、成果を見せることが必要だと思います。それで成績が上がったとか、生徒が使いこなして生き活きと勉強に臨んでいる姿勢が見えることなどが重要と考えています。とは言え、本質的にはまず「教育」があって、ICT はそれを伝

えるためのツールなので、「ICT で全部解決できます。」ということはありません。特に今は過渡期、移行期で負担が二重にかかってくる面があると思うので、先生方には大きな御苦勞をおかけしていると思います。

ICT を活用した教育の形が見えてきて、「こうすれば素晴らしいことになりそうだ。」という兆しが出てくると、加速度的に予算も取りやすくなり、また、インフラだけでなく、先生方や教育委員会も含めた人材が育つことによって、相乗効果が現れてくるのだと思います。私がまず狙いたいのは、「このように使えるのか。」という実感と、「上手く展開し始めているな。」という兆しです。一中の先生方にも御協力いただいて、各学校の好事例について共有するところからスタートして、上手く展開が進むことを期待しているところですので、よろしくお願いいたします。

○事務局 成相副教育長

ありがとうございました。

それでは藤原教育長、よろしくお願いいたします。

○藤原教育長

教育長の藤原でございます。今日は貴重な授業を見させていただきまして、本当にありがとうございました。

今日のテーマに据えておりましたのは、ICT 教育の現状と課題を教育委員・市長にも見ていただいて、現場はどのような問題点を持っているのかということを見ていただくということです。

正直な印象を言わせていただきますと、やはりまだ試行錯誤中で、こなれていないなというのが正直な印象です。当然ですけれども、教える側も学ぶ側もこの環境に慣れていかないと、限られた授業の時間の中で、目当てをシステムティックに終わらせなければいけないという、本当に先生の大変さというのを実感したところです。

その中でも、先ほどから話に出ていますけれども、クラスにやはり 1、2 台は上手く動かないタブレットがあって、そこで先生もそこに手を取られていらっしゃるし、それをサポートする人間もいないという状況ですので、貴重な時間がそこで着々と過ぎていってしまっている。生徒にもかわいそうだなと思いながら見ていたということがあります。

今までもいろいろタブレットを使った授業を見てきましたが、やはり途中で必ずグループワーク、要は個人で考えてグループで意見を交換し合うという場が設けられています。その中で、良いパターンだなと思ったのは、科目によっても違うと思うのですが、よく分かっている子がグループに1人ぐらいつついると、その子たちを上手に使って授業を進められた例です。その子たちは、「自分は早く分かったから、人に教えたい。」という気持ちもあって、そうすると、人に教えることというのはすごく難しいということが、その子たちもその授業の中で分かっていく様子を見ました。

そうすると、できる子たちを上手にグループリーダーとして使っていくことで、かなり先生が注ぐ力の省力化が図られるのではないかなと感じましたので、そういう授業の組み立てもあっても良いのかなと思います。そういうことも1つ視野に入れていただければ良いかなというように思っています。

今、世の中でデジタルネイティブとかデジタルシティズンシップとか、そういう話が出ています。大学の授業等で、中学校から高校・大学とステップアップしていく中で、いろいろな学校の子が同じクラスに集まってくると、そこでものすごい格差がもう既に出ているということが言われています。松江の子がそういう状況になってはいけなくて私は本当に強く思っていることです。どこに出ても、「松江の子はすごいね。」と言われる環境を私は是非作っていきたいと思っております。田舎の子だからこそ、余計にそこは力を入れていかなければいけないところだと思っておりますので、いろいろ叱咤激励をいただきながら、確実に前進していきたいと思っております。

先ほどありましたように、令和5年度は契約の更新など、ハードに関わる部分が随分多く出てきて、大変予算がかかる年でもあります。そのために、更にICT関係の職員を増やす予定にしています。そこで担当職員がもっともっと皆さん方の現場に行き、皆さん方の悩みを聞きながら課題を解決できる体制を作りたいと思っております。

一朝一夕に解決しない課題であるとは思っていますが、やはり子供たちにとっては必須の使いこなすべきツールであることは間違いありませんので、教育委員会としても、引き続き松江の子供たちにとってしっかりと力になるような環境づくりをしっかりと実現していきたいと考えています。

いろいろ課題があるということを見せていただきました。我々教育委員会は、それを確実に1つずつ解決していくためにしっかりと努力していきたいと思っておりますの

で、是非ともこういう形でまた現場を見せていただきながら、課題解決につなげていければというように思っております。

最後になりますけれども、私が今日一番印象に残ったのは、ピンポン玉の副教材でした。すごくホッとする、しかし、すごく役に立っているというピンポン玉、とても良かったです。ありがとうございました。

○事務局 成相副教育長

ありがとうございました。

藤原教育長の意見について、何か「このことを言いたいな。」ということはないですか。

先ほどの委員さんの御意見にもあったのですが、例えば ICT 支援員が付いて入ったとしても、その人 1 人ではなかなか難しい。結局、トラブルが起きても今は授業者しか直せないかもしれないけれども、だんだん使っていくうちに生徒が自分で直せる、または、得意な子が直せるようになっていかないと、停滞することが必ず出てくるだろうなというように見て思いました。

それでは、皆さんの御意見を聞きました。もう少し時間があります。ここまでのところで「こういうことを聞いてみたい。」とか、「こういうことを言いたい。」ということが委員の皆様からありましたらお願いします。

原田委員、どうぞ。

○原田委員

教科ごとに自分で作るノートがあると思うのですが、そのノートとタブレットに記入していくことの割合と伺いますか、例えば授業中も「今は板書だよ。」とか、「今はタブレットだよ。」ということが明確に分かれているのか、それとも子供たちが自分たちでそれを考えてやっているのかということについて伺います。

○事務局 成相副教育長

これは授業者の先生方、どうでしょうか。

○第一中学校 寺本教諭

私はノートとタブレットの度合いを意図的には区切っておりません。私は今日授業で公開したとおり、タブレットドリルを最近好んで使っているのですが、これはあくまでも本当に復習であるとか、振り返りのようなものとして使っていて、決して授業の核に持ってくるものとしては使っておりません。ですから、私はタブレットドリルをノートに仕上げていくといった使い方はしておりません。

○原田委員

ノートはしっかりあるということですか。

○第一中学校 寺本教諭

別に生徒は自分の紙媒体のノートを準備しております。

○第一中学校 池田校長

タブレットドリルについては、前年から選定もありましたので、どういうものが導入されるかというのは非常に興味深かったのですが、私は数学を専門としてるので、次から次へと問題を解いていく際にはやはりノートで計算をさせたいということは常々思っていて、問題があっても問題を写し取ってそこに解答をするということが併せて必要ではないかなと今は考えています。もう少し様子を見てみたいのですが、同じ数学の田中さんはどう思われますか。

○第一中学校 田中教諭

タブレットはそこまで画面も大きくありませんので、計算したり、図を描いていくと、正直なところ、小さすぎてできないというところが多いので、やはりハイブリッドというか、問題はタブレットにあるけれども、実際にはノートに計算などを書いていくのが良い方法なのかなとは感じています。

あと、今日私が授業の中で使ったように、多様な考えを出すときには、タブレットがあるといろいろな意見を把握できるので、そういったときにはタブレットを使おうと思っています。

ただ、通常の問題があって、答えを出すというようなときであれば、基本的にはワークシートを使っています。電子黒板にいろいろな映像・画像などを出すことはしま

すが、基本的にはそのように使っています。

○原田委員

その上にプリントも付きますか。

○第一中学校 田中

はい。そうです。

○原田委員

1 教科をやるにあたって、教材や見るものが増えているので、それを上手に使うということについては子供たちでは判断が難しい部分もあるのかなと思いました。

例えば、今は大学の授業でもノートをどうやってとるのが良いのかとか、紙でとることと、タブレットにPDFが送られてきてそこに書いていくことと、どちらが良いかという論争があるということも聞くので、そういう話に持っていくのかなと思って聞かせていただきました。

○上定市長

関連して、田中先生教えてください。我々が中学生のときに、例えば、数学の授業中に、先生が黒板に問題を書いて、「出席番号〇番、前に出て黒板に回答を書いてください。」というようなことがありましたが、今もありますか。

○第一中学校 田中教諭

もちろんやっています。

○上定市長

やろうと思えばできますよね。森脇先生が授業で元寇を教えられているときに、タブレットから映し出された電子黒板には『徳政令』と書いてありました。黒板と電子黒板をどのように使い分けられているのか、教えていただければと思います。

○第一中学校 田中教諭

私の数学の授業の場合は、電子黒板には図形やグラフなどを映し出すようにしています。グラフもパソコンですぐに線が引けたりするので、電子黒板に映し出して、基本的には途中の式などは黒板に書いて、生徒がノートをとるのは黒板のほうになるかなと思いつながら使い分けています。

#### ○上定市長

もう1つ、昔の数学の先生の姿として思い浮かぶのが、大きな分度器や大きな三角定規や物差しを上手く使いこなして、黒板に図形を描くということは最近もされているのですか。

#### ○第一中学校 田中教諭

はい。今もありまして、それらを使いながら作図をしたりしています。ただ、デジタル教科書にもそのような大きい分度器や大きいコンパスなどが出てきて、アニメーションみたいに出て描くこともできます。その良さは繰り返し映し出すことができるということで、遅れたという生徒ももう1回見たり、分からないときにはそちらのほうが有効なのかなと思ったりしています。ただ、実際に教員が書くときには生徒が書くのと同じような手順で実際に描いていくので、そのときにコンパスがどれくらい開いたら良いとか、あまり短すぎても長すぎてもいけないときだったら「これくらいかな。」とか言いながら教えるのは、実際に教員が書いたほうが分かりやすいのかなとは思っています。

#### ○藤原教育長

今、デジタル教科書の話が出ましたが、これからこれが本格的に入ってくるという話もあります。文科省の審議会では、「紙ベースも残しながらデジタル教科書も導入する。」という話になっており、今でもそのように感じるのですけれども、授業中の情報量が多すぎて、どうやってそれを使いこなしていくのか本当にイメージできません。今でもタブレットを使いながらいろいろな紙ベースの教科書も見て、あれもこれも同時にいろいろなことやりながらやっていますけれども、これからはもっと情報量が増えることになるので、それをどうやって先生方は教えていくのか、大変なことになるのではないかと思いますけれども、結局、紙ベースの教科書も残るみたい



な話を国はしているのです。

「紙の教科書は今までどおり無償で配布するけれども、デジタル教科書は教育委員会が購入せよ。」と言っているのです、その辺りも含めて、デジタル教科書に対してどういうイメージを持っておられるのかということについて、感触で良いのでお尋ねしたいと思います。

○事務局 成相副教育長

私見で結構ですので、御意見をお願いします。

○第一中学校 田中教諭

ちょうどこの前、数学について生徒用のデジタル教科書を配備するという話に手を挙げるか挙げないかというようなことがあって、本校ではどうしようかということをお話し合ったときには、今、タブレットドリルを松江市内で取り入れているので、家庭学習などを考えたときには、タブレットドリルをまず使えるようになったほうが良いのかなということで、今回は数学ではデジタル教科書は使わずに、と考えています。

ただ、これが全国に配置されるということになったときには、情報量が本当に多くなるため、どのように活用していけば良いのかということについては、これから考えていかないといけないと思っています。

○藤原教育長

ありがとうございます。

○事務局 成相副教育長

校長先生、どうですか。この先のデジタル教科書・紙教科書についてのお考えは。

○第一中学校 池田校長

先ほど田中教諭が話したことについては、一緒にどうしたものかなと話したのですがけれども、教員用のデジタル教科書が揃っていると、視覚的な支援ができてあらゆる場面を子供たちに見せることはできるだろうけれども、子供たちがそれぞれ自分の手元にデジタル教科書を持っていても、どこをどうやって子供たちが活用している

かを見ることができないだろうということで、今はタブレットドリルに注力しようということになったわけです。

私たちも子供たち全員がデジタル教科書を手に持って、それぞれ動かしたり、教材を使ってみたりするところのイメージが掴めていないのが正直なところです。

#### ○原田委員

デジタル教科書と紙の教科書の中身は一緒ですよ。私がイメージするのは、学校に紙の教科書があって、それを持って帰らなくてもよくなるという移動の問題で、家ではデジタル教科書が見ることができるようになると、今、特に小学生などで言われている持ち歩きの重さという問題の改善にもつながるのかなと思いました。ただ、私のイメージとしては、「デジタル教科書を家で見よう。」となったら、端末が別にあって、もう1個の端末で教科書を見ながら自分のドリルを使っている、学校の持ち帰りしているタブレットとは別になるというイメージがあります。デジタル教科書を家で見ようと思ったら、家のパソコンなどを使って見て、使うものはタブレットの中に一緒に入れ込んで、教科書も同時に使うということができないと思います。私のイメージはそういうイメージです。

#### ○藤原教育長

議会で関連する質問があって、今はランドセルにあれだけの量の紙の教科書を持って来て、持って帰ってという状況ですが、「このデジタル教科書が入ったら、教科書を持って帰らなくてもよくなるかもしれません。」みたいなことを言ったのですけれども、先ほどの話のとおり、いずれにしてもタブレットの画面の大きさでは、2画面出して比較しながら何かをするというのは物理的に無理だと思っているので、そうするとパソコンの大画面のものを2つ並べてみたいな世界でなければいけないとなると、現実的にどうなのかなと思っています。確かにデジタル教科書の読み上げ機能などで拡張とか図を展開していくとか、そういうことは確かに良いなとは思いますが、どこでどのように使うのかなと感じています。

私はデジタル教科書に関しては懐疑的な思いを持っているので何とも言えないのですけれども、どちらにしてもそれを使いこなしているところがあれば、やはりそういうのを見に行かなければいけないと強く感じています。「こういう使い方があるぞ。」

という情報がゲットできて、共有できると良いなと思っていますので、その辺りもしっかり努力していきたいと思っていますところ。御意見ありがとうございました。

○事務局 成相副教育長

ありがとうございます。

たくさん御意見をいただいている中ですが、もう時間がきております。市長、いかがでしょうか。

○上定市長

1 個質問があります。中学校には文化委員とか体育委員とか飼育委員とかあると思いますが、ICT 委員というのはありますか。先ほどお話がありましたが、「分からないときは〇〇君に聞くとよい。」という風に、IT リテラシーが高い生徒もいると思います。本人も頼りにされればまたそれで自分で勉強するでしょうし、ICT 委員会で最新のソフトウェアについて勉強するようなことも可能かもしれません。そういうことを検討しても良いかと思いました。

○第一中学校 坂本教諭

ありがとうございます。中学3年生を担当しておりますので、一番年齢の高いところというところでお話させてください。

何とか生徒側でカバーし合えないかというお話もありまして、先ほど ICT 委員を設けたらどうかという御提案もいただきました。理想としては、そういった生徒同士の関わりも目指していけたらよいと思っていますが、現状としてはなかなか難しいです。そこまで踏み込めていないのが今の3年生だと思っています。

なぜかという、今日授業を見ていただいて、校長先生からも、たくさん使ってきたクラスだったり、慣れた教員だったりするところを見ていただいたというお話があったのですが、実際は1日、2日でここまで来たわけではありません。今日見ていただいた授業作りについてですが、私が思い付くところだけでも多くの時間を費やしています。例えばハード面ではいろいろなアカウントが配られています。各教室でスカイメニューだったり、マイクロソフトだったり、学びポケットだったり、いろいろなものを御覧いただいたと思いますが、それぞれのアカウントが一つひとつあり

ます。これを並び替えて生徒一人一人に渡して、「これはこういうものだよ。」と1つずつ指導していく時間が必要でした。それを指導するまでに、教職員にも周知をして、自分たちで共通理解を図って、またそれを一人一人の教員が学ぶという時間も必要でした。

そのうえで、次はソフト面として、一人一人の授業準備の時間が必要です。これまでの教科書・参考書、教材・教具の準備にプラスして、タブレットの学習の準備が増えました。スカイノートや今までのプリント、ノートなどいろいろなものが増えて、その準備や、自分自身の研究も増えました。これを更に生徒が使えるようにするには更によく学ばなければならず、しかし、自分のタブレットはないので、試行錯誤しながら授業を進めています。今日、私が授業をしたクラスは、2年生のときも含めて、通常であれば1時間で終わるような授業に3時間使ったり、4時間使ったりして、タブレットを使いこなすためにもものすごく時間を使ってきた生徒たちです。

もちろん、学級担任として生徒同士が教え合ったりとか学び合ったりする組織づくりもこれまでどおりやりますが、そういったものとICTを絡めていくというところは、まだまだこれからの課題というところです。もちろん、いろいろな発想や「こうできたら良いな。」という構想はものすごくあるのですけれども、試行錯誤の中、苦しみながら、勤務時間を超えて取り組んでいる現状もあるということをお想像いただきながら、今日の授業を振り返っていただけたらと思っております。

#### ○第一中学校 勝部主任

一中の事務職員の勝部と申します。

今の坂本先生のお話に近いのですけれども、先ほど市長さんからいただいた「ICT委員会を作ったら良いのではないか。」という御意見は、すごく良いことだなと思うのですけれども、やはりそれは生徒から出てくるべきではないかなと思っています。子供たちが「俺たち得意だからやるよ。」と言ってくれるとか、生徒会のメンバーが「今度こういうことをすれば良いね。」というように出てくるべきものだと思っているのですが、結局子供たちにはそこに至るまでの経験がありません。私たちもそうでしたけれども、「自分だったらこうするな。」ということを考えず、3年間で先輩たちがやる姿を見て、「先輩がやってきたことを自分たちもやりたいな。」と思うのが子供、今の中学生だし、コロナの影響があって、より実質的な活動ができていないというのが現

実です。

ですので、子供たちが生徒会などで何か学校を動かすという経験は実はあまりたくさんはないなというように感じています。大人が場を作ることは簡単で、「あなたは得意だね。やってみたら。」ときっかけを作ってあげるとはもちろん大事なことだとは思いますが、やはり大人も子供たちに寄り添いながら、子供たちから沸き上がってくるような活動をやっていくことが一番重要だと思っています。そのためには、やはり先生方が子供たちとじっくりゆっくり話し合う、大人が上から話すのではなくて、子供と同じ目線で経験を生かしたお話などをしてもらいながら、じっくり話し合う時間が必要だなと感じています。一中は今年度、島根県の働き方改革の挑戦校に手を挙げて、半年間取り組んでいるのですが、教員がなかなか時間がないと感じていることが一番厳しいと思っています。ですので、大人が作ってあげるのではなくて、子供たちから沸き上がってくるような経験につながっていくには、もう少し時間が必要なかなというように感じています。

#### ○第一中学校 池田校長

教育長さんから先ほど非常に心強い御発言をいただいたと思っています。私が持っているこのカードにはアカウントが書かれていて、ここに QR コードがシールで貼られているのですが、これを全部一覧表から差し込み印刷にしてくれたのが坂本先生でして、このシールも作ってくれた人がいらっしゃって、これを全部ハサミで切って、800、900 枚近くを全部貼り付けて子供に渡しています。こういった隠れた作業が大きいのがゆえに少し時間がかかっているところです。こういったところに来年度 ICT 係さんが増強されて、少し手助けしていただけるということが分かっただけでも非常に心強く感じました。

また、今度入学してくる子供たちは、入学前に ICT 機器を随分使ってきた子供たちですので、これは我々にとっても心強いと考えています。何年か経つときっともっとスムーズな操作ができるような子供たちが増えるだろうと思うので、今度は私たちが負けないように、それに押し切られないように熟達する必要があると思っています。ありがとうございました。

#### ○上定市長

教育委員の皆様、先生方、今日は本当にありがとうございました。

冒頭、池田校長先生から、学校側でこれから検討される事柄として、どの場面で ICT を使うかを授業の中で検討していくというお話と、タブレット端末や学習ソフトの機能を研究し、使い方を共有していくというお話をいただきました。

このお言葉は心強く、是非意欲的に取り組んでいただきたいのですが、先ほど坂本先生がおっしゃったとおり、先生方が相当御苦労されていると私も聞いております。繰り返しになりますが、今、過渡期であるがゆえに、また、コロナ禍の影響がある中で、大変御苦労されていると思います。是非その声をお聞かせいただき、無理のない形で ICT を活用した教育について先生方に意欲をもって取り組んでいただける環境を作っていかなければと思っています。教育委員会が一人でその環境を作るのではなく、先生方と一緒に作っていくものと考えておりますし、現在、教育委員会と各小中学校はスムーズな意見交換ができているものと認識しています。

今後も忌憚のない御意見をいただき、優先順位を付けて、ハード面、ソフト面、情報共有できる仕組みづくりなどに能動的に取り組んでいきたいと考えています。我々も知恵を絞ってまいりますので、これからも御協力のほどよろしく願いいたします。

今日は本当にお忙しいところ、お時間をいただきありがとうございました。また、教育委員の皆様も、お忙しいところ御意見いただきましてありがとうございました。引き続き、連携しながら進めていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

#### ○事務局 成相副教育長

ありがとうございました。

まだまだたくさん意見が出そうな雰囲気ではありますが、時間となりましたのでまとめさせていただきます。

たくさん課題が出ましたが、それも一中の先生方に授業公開をしていただいて、また、授業者の先生方に協議にも参加していただいて、それによってたくさん課題が見えてきたかなと思っているところです。今日の総合教育会議が一中にとって一番良い時間になっていたら良いなと思っているところでございます。

それでは、以上をもちまして、令和4年度第2回松江市総合教育会議を終了いたし

ます。長時間にわたって貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。お気を付けてお帰りください。